

5 福島城と城下町

旧城下町の中心街を巡る

こだりに
ふくしま通

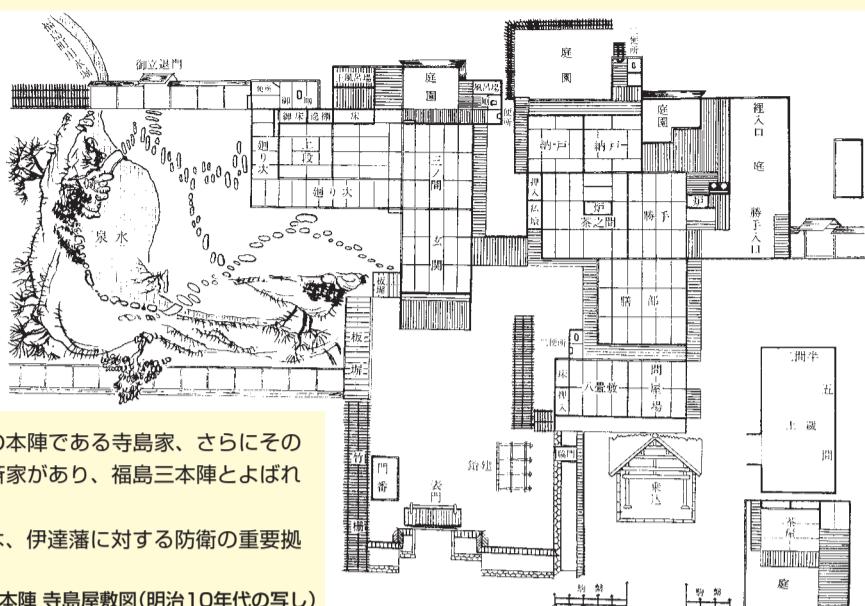
①まちなか広場（本陣）

奥州街道は中町から北に進み本町北端で東に右折しますが、この角、まちなか広場付近に参勤交代の大名が宿泊する本陣がありました。

奥羽の大名（秋田・南部・米沢を除く）や幕府役人の本陣である黒沢家、その西隣には秋田・米沢藩の本陣である寺島家、さらにその東に南部藩本陣の安斎家があり、福島三本陣とよばれました。

また、戦国時代には、伊達藩に対する防衛の重要な拠点でした。

★福島町脇本陣 寺島屋敷図（明治10年代の写し）



②路面電車の送電線の名残

昭和46年4月に廃止された路面電車に送電していた電柱が2本残っています。

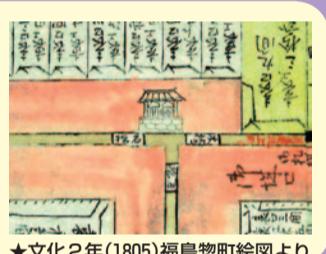


③札の辻

札の辻と呼ばれた高札場。

ここは、奥州街道を江戸方面から来て、左へ曲がれば仙台方面、右へ曲がれば福島城大手門という三叉路で重要な場所でした。

高札場に藩の布告（法令や掲示）を板の札に墨書きして掲げられました。



★文化2年（1805）福島惣町絵図より

④大手門跡

大手門はお城の正門です。

初代板倉主の板倉重寛は大手門を始め福島城と城下町の整備を行いました。

大手門の分厚い扉には鉄板が貼られ、門の上には櫓を設けてあり、屋根にはシャチ、石垣の上には白壁の塀があり、矢・鉄砲などを放つための角や丸の窓穴（間）があつたそうです。



⑤河野広中の像

三春出身で自由民権運動の中心となり、明治14年に県議会議長となり、県令三島通庸と対立し、福島事件で逮捕されました。

後に国会に14回連続当選し、初代衆議院議長となりました。

銅像は県議会議場に向かって大きく手を広げています。



⑥福島城土壘

福島城で現存する唯一の土壘です。

県庁西庁舎南側にあり、福島城西門南土手にあたる阿武隈川まで延びていた南北方向の土壘の一部で、土壘の西側は空堀でした。

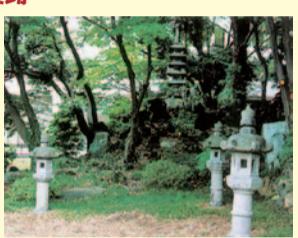


⑦大島要三邸の庭跡

福島競馬場の生みの親と言われる大島要三邸の庭跡。

要三は埼玉県（現加須市）生まれ、土木業から身を起こし、政界でも活躍した実業家です。

信夫山に銅像が設置されています。



⑧板倉神社

板倉家の藩祖板倉重昌（寛永15年（1638）島原の乱で討死）の靈を祀っています。重昌は天草島原のキリストンの一揆を鎮圧するため幕府が組織した連合軍の総大将でした。その末裔が元禄15年（1702）から福島藩主となりました。

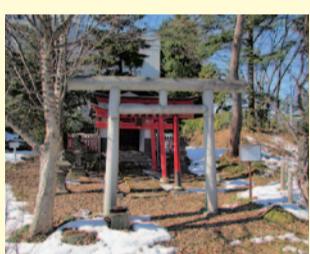


⑨杉目稻荷神社

この神社は福島市の水道局があった北通り（郭内と商人街の間の道）に、福島城の丑寅・東北の方角の守りとして西向きに建っていたといわれています。

南仲通りの開拓のため、明治の初めに現在地に移されました。

杉妻の里の土産神（氏神）として崇敬されてきました。



⑩密語橋

密語橋は杉妻会館

西側の外堀に架けられ、南から福島城に入る道筋にあたり、全長5間、幅2間の手すり付き板橋で、天保14年（1843）

に土橋に替えられました。現在は杉妻会館庭園内に縮小した石造りの密語橋が架けられています。

